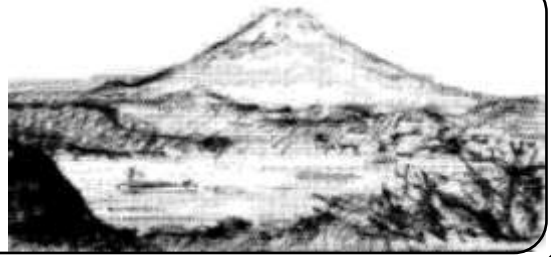


# かけはし

昭島市立玉川小学校 平成 29 年 7 月 14 日  
校長だより No. 4 稲垣 達也



「ダメな子」とか、「わるい子」なんて子どもは、ひとりだっていないのです。

もし、そんなレッテルのついた子どもがいるとしたら、  
それはもう、その子たちをそんなふうに見ることしかできない  
大人たちの精神が貧しいのだ。

<手塚 治虫>

腐ったミカンの方程式 ドラマ「3年B組金八先生 第2シリーズ」に出てくる台詞

「俺達はミカンじゃねえ！ 人間なんだ！」自分達を腐ったミカンに例えられた 加藤 優（不良生徒役名）の魂の叫び声です。

腐ったミカンが箱の中に一つあると、他のミカンまで腐ってしまう。だから、他のミカンを救うためには、腐ったミカンは早めに捨てなければならない、これが“腐ったミカンの方程式”です。

金八先生「腐ったミカンを放り出す！ それがプロの教師のやることですか？ 我々は機械やミカンを作ってるんじゃないんです！ 我々は毎日人間を作っているんです！ 冗談言っちゃあ困るよ！ 腐ったミカンを放り出すのがどうして教育なんすか？」

困った子はいない

「困った子」はいません。「どうして話が聞けないの？」 「どうして他の子のようにできないの？」 「どうして迷惑ばかりかけるの？」 でも、その子から、答えは出てきません。それは、「困った子」ではなく、本当は「困っている子」だからです。その子自身が、本当に困っているのです。

自動車に例えると、「困っている子」は、どうしても上手に運転をすることができません。真っ直ぐ進みたくても、自分の車をコントロールできないのです。あちこちフラフラしたり、突然逆走したり、ぶつかってきたりして、車を運転している本人が一番困惑しています。

だから支援や指導が必要なのです。家庭教育、学校教育、その形態は様々です。

子供の状況によっては、早期に特別支援教育など、専門的な教育や医療・福祉につなぐことも大切です。不適切な対応は、子どもを追い詰め、「どうせオレは（ダメなんだ）」「どうせ誰も（わかってくれない）」と、生きていることが辛くなるばかりです。

大村はま 先生 の言葉より

範を示すことが嫌  
いになったのか、非常にし  
なくなりましたね。  
昔は、「私に似なさい」  
ぐらいの気持ちでやって  
いたんですから。  
今は、「私に似なさい」  
なんていう態度はいけな  
いことみたいになっていま  
すけれど、だから子ど  
もはどっち向いてやった  
らいいか、わからないので  
はないでしょうか。  
「教師 大村はま  
九十六歳の仕事」より

子どもたちに、安易  
に、だれでもやれる、や  
ればやれるといいたくな  
い。  
やってもできないこと  
がある。それも、かなり  
あることを、ひしと胸に  
して、やっても、やっても  
できない悲しみを越え  
て、なお、やってやって  
やまない人になりたいと思  
う。  
大村はま国語教室の会  
会報「はまゆう」より